

# 変貌する大上海



● 浦東の開発が始まった

● 証券市場に世界が注目

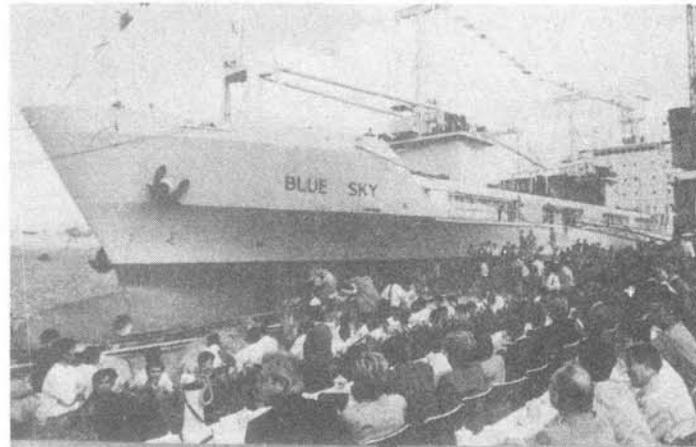
● 完成間近の南浦大橋

● 地下鉄工事は急ピッチ

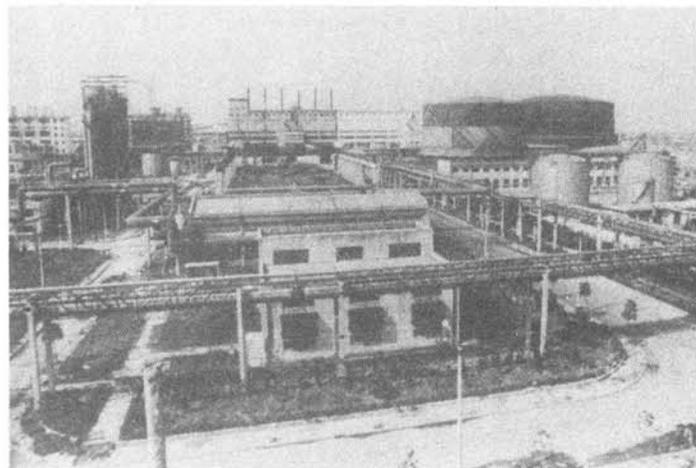
● 蘇州河もやがて清流に



上海の浦西から浦東への22万ボルト送電線の取り換え。これによって送電が倍増した。



上海の造船工業はもともと大きい実績をもっている。これはドイツの注文で建造した国際最新レベルの冷蔵船ブルースカイ号。



年産100万立方メートルのガス工場第2期工事も完成、今年末には操業を開始。

上海は、西太平洋の主要港湾都市の一つであり、その発達した金融、商工業と科学技術水準は世人の注目するところだ。  
上海はまた中国最大の経済の中心で、新中国成立四十余年らい、国民総生産は、中国各省、直轄市、自治区の首位にあり、国家の財政収入に対する貢献も最大だ。一九八〇年代の十年間の、上海市の財政収入は二千四百三十一億元で、そのうち千七百三十七億元を国庫に納入した。これは国家財政収入の八・八%を占めている。  
発達した上海の経済は、長江流域の経済発展の促進役にもなっている。

一九八〇年代に入って、上海の改造と振興は安定した歩みをはじめた。宝山鉄鋼コンビナート、金山石油化学コンビナートをはじめ、サンタナ乗用車、永新カラーブラウン管、益昌冷間圧延薄板など大型工業の建設が始まり、経済の発展に新たな基礎を提供した。  
しかし、上海の市街地区には、工場用地、交通、住宅、都市汚染などの問題が山積している。そこで、黄浦江東岸の浦東地区の開発が打ち出された。  
いま、千三百万上海市民は、上海振興、浦東開発の歩みを進め、新しい世紀に向かって、外向型の、多くの機能を持つ国際都市上海を建設しつつある。